

令和2年度 いじめ問題に関する評価の実施状況

評価項目	評価観点等の内容	評価	分析及び改善策
1 日頃の児童生徒理解	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が安心して学校生活が送れるように努める。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会、特別支援指導部会（月1回）、同学年会（毎週）などで、児童の生活実態の把握に努めた。 ・児童の問題行動に対しては、学年や特別支援コーディネーター、管理職でチームを組んで、担任一人で抱え込ませず、学校全体で連携をとり対応に当たった。 ・全児童を対象になかよしアンケートを月1回実施した。気になるアンケート結果については早期対応し、改善を図ることができた。今後はさらに予防的な指導にも力を入れていかなければならない。
2 未然防止や早期発見	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営を安定させる。 ・教職員の危機管理能力を高め児童が発する危険信号を見逃さないよう早期発見に努める。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業の充実を通して、教師が子供一人一人を大切にしている言葉遣い、姿を示すと共に、学習規律等の指導の徹底を通して、心の教育、互いを大切に作る支持的風土づくりを行った。児童に指導事項が届き自己有用感を高めることにつながった。今後さらに、教職員一人一人の学級を安定化させる指導力向上に努める。 ・月1回の児童へのアンケートとともに、同学年や管理職と、日々情報の共有を行いながら指導を行うことができた。積極的な家庭への働きかけも行い、適切な初期対応に繋がった。 ・児童が相談しやすい環境、専門機関との連携、後進の育成等の充実を図る必要がある。
3 いじめへの迅速適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめが生じた際、学校全体で迅速に対応できる体制を整備する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のトラブルについては、組織で即日対応を原則とし、担任、同学年職員、そして必要に応じて管理職も加わり対応できた。さらに、積極的に保護者と連携し、解決を図った。年度をまたいだ事案についても長与小学校いじめ防止基本方針に則り、解決に至るまでは3か月以上の観察の必要性を意識し、継続的な見守りを行った。 ・未然防止の指導の指導を充実させ、どの子ども学校が楽しいと思える学校生活を実現していく。
4 組織的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめが生じた際、学校全体で組織的に対応できる体制を整備する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、幅広い年齢層で構成された教職員であったため、新年度の始まりと共に、学年主任を中心として、毎日の情報交換、週1回の同学年会を通して、各クラスの児童の実態の共有を図ることができ、学年で対応することができた。さらに支援が必要な児童は、特別支援コーディネーターが役割を分任し、管理職と共に組織的に対応し、保護者、外部機関等とも連携を深め、課題解決に取り組むことができた。指導力を高めるための後進の育成は今後の課題である。
5 方針等の共有 (保護者・地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの対処方針や指導計画を明確にする。 ・方針や取組を保護者、地域と共有し、理解や協力を得る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初にホームページで本校の「いじめ防止基本方針」の公開を行った。また、年度当初・途中に、現状に応じて「いじめ防止基本方針」を全職員で共通理解を図った。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学級懇談会時の働きかけはできなかったが、学校便りやGIGAスクール構想に向けたメディアリテラシー教育等により児童への指導や保護者への情報の共有ができた。今後も日頃から、いじめ防止に必要な教師の感性を磨くと共に、日常的な保護者・地域とコミュニケーションをもち、いじめ0を実現していく。

※ 評価（4. 3. 2. 1）